

「サイレントシネマ・デイズ 2019」のお知らせ

2019年11月12日(火)－11月17日(日)

長年失われていた『ユダヤ人のいない街』を
 フィルムアルヒーフ・オーストリアによる最新復元版で日本初上映

映画初期に製作された無声映画は、当時、まだ映画保存の必要性がそれほど強く認識されていなかったことに加え、災害や戦禍などが重なったことにより、世界のどの国や地域においても残存率が低くなっています。無声映画は当時、弁士による説明や音楽の生演奏を付けて上映するのが常でした。したがって当館にとっても、無声映画を大切に保存し、説明や生演奏を付けて上映することは、映画文化の次代への継承という意味において、最も重要な使命の一つです。



『ユダヤ人のいない街』

本企画「サイレントシネマ・デイズ 2019」は、中央アフリカの豊かな自然をカメラで捉え、物語仕立てにまとめた『テンビ』をはじめ、サイレント映画の美学の一つの頂点を示す『エル・ドラドオ』、『トルブナヤ通りの家』、笑いとペースを誘うグリフィスの代表作の一本『曲馬團のサリー』、中国武侠映画の典型を示す『紅い剣士』など、NFAJ所蔵作品から厳選された5か国(イギリス、フランス、ソ連、アメリカ、中国)の5本のサイレント映画に加え、フィルムアルヒーフ・オーストリアによって2018年に復元された重要作『ユダヤ人のいない街』を日本初上映するなど、見応えのあるラインナップとなりました。ぜひとも貴媒体にて周知にご協力を賜りますと幸いです。



『トルブナヤ通りの家』

▼本企画の見どころ▼

- サイレント映画期と同様に、弁士の説明や生演奏を付けて上映
- 野生動物写真のパイオニアとして知られるチェリー・キーアトンの『テンビ』をはじめ、世界各国の多様なサイレント映画を所蔵プリントで上映
- フィルムアルヒーフ・オーストリアにより2018年に復元された『ユダヤ人のいない街』を日本初上映

▽上映作品▽ (全6作品) ※各日2回目の上映が弁士・伴奏付きプログラムとなります。上映スケジュールは、HPかプログラムをご確認ください。

- 1.『エル・ドラドオ』 El Dorado (1921年、フランス、監・脚：マルセル・レルビエ) 伴奏：長谷川慶岳 はせがわ・よしたか (ピアノ)
- 2.『ユダヤ人のいない街』 Die Stadt ohne Juden (1924年、オーストリア、監・脚：ハンス・カール・プレスラウアー) 伴奏：神崎えり こうざき・えり (ピアノ)
- 3.『曲馬團のサリー』 Sally of the Sawdust (1925年、アメリカ、監：D・W・グリフィス) 伴奏：小林弘人 こばやし・ひろと (ピアノ)
- 4.『トルブナヤ通りの家』 Дом на Трубной (1928年、ソ連、監：ボリス・バルネット) 伴奏：柳下美恵 やなした・みえ (ピアノ)
- 5.『テンビ』 Tembi : A Story of the Jungle (1929年、イギリス、監・撮：チェリー・キーアトン)
 弁士：坂本頼光 さかもと・らいこう 伴奏：坂本真理 さかもと・まり (キーボード、アフリカドラム他)
- 6.『紅い剣士』 紅侠 (1929年、中国、監・脚：文逸民) 伴奏：新垣 隆 にいがき・たかし (ピアノ)

サイレントシネマ・デイズ 2019 Silent Film Days 2019

会期：2019年11月12日(火)－11月17日(日)

主催：国立映画アーカイブ 協力：フィルムアルヒーフ・オーストリア、株式会社橋本ピアノ

会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU(2階) 定員：299名(各回入替制・全席自由席)

料金：一般520円／高校・大学生・シニア310円／小・中学生100円／障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

★弁士・伴奏付き上映の回 一般1,050円／高校・大学生・シニア840円／小・中学生600円／障害者(付添者は原則1名まで)は無料／国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ400円(学生)、500円(教職員)

前売券：10月29日(火)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各150席分)を販売します。[Pコード:550-499]

購入方法や発券手数料等の詳細はホームページかプログラムをご確認ください。

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600(ハローダイヤル) 本特集のHP→ <https://www.nfaj.go.jp/exhibition/silentfilm201910/>